

2024年3月13日(水)第二水曜祈祷会

マタイの福音書23章27～39節

「怒り、憤りとともに」

【律法学者、パリサイ人に対する非難】 *「わざわざだ」…憤りと同時に深い嘆きを表す言葉。

- ①人々の前で天の御国を閉ざしている。律法の重荷を人々に押しつけている。
- ②改宗者をつまずかせている。誓いに関する誤った理解を教えていた。目の見えない案内人。
- ③自分たちの敬虔さをアピールして、人々から栄誉を受けようとしている。

【観察と黙想】

1. 白く塗った墓のよう(23章25～28節)

- ①イエスさまはなぜ「目の見えないパリサイ人」と言われたのですか。
→
- ②律法(民数記19:16)では、墓に触れることについてどう定められていますか。
→
- ③「白く塗った墓のよう」とは、どういう意味ですか。
→

2. 正しい人の血の報告(23章29～36節)

- ①「預言者の墓を建て、義人たちの記念碑を飾って」いたのは、なぜですか。
→
- ②「自分の先祖の罪の升を満たすがよい」とは、どういうことですか。
→
- ③「義人アベルの血から…ザカリヤの血まで」とは、どういうことですか。
→

3. エルサレムに対する嘆き(23章37～39節)

- ①「めんどりがひなを翼の下に集めるように」とは、何を表していますか。
→
- ②「荒れ果てたまま見捨てられる」という預言は、どのように実現しましたか。
→
- ③「祝福あれ、主の御名によって来られる方に」と言う時とは、いつのことですか。
→

【適用と分かち合い】

- ①「偽善の律法学者、パリサイ人」とは、どういう人物だったと思いますか。
- ②言行一致の歩みをするためには、まずどうすればいいですか。
- ③イエスさまがここで繰り返す「わざわざだ」と言っている真意は、なんだと思いますか。